

# 令和2年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	Coronavirus disease2019 流行時における心療内科外来患者の受診および感染症対策を実施した診療に関する意識の調査
研究者所属・氏名	研究代表者：上村 泰徳 <sup>1)</sup> 共同研究者：小山 敦子 <sup>2)</sup> ・奥見 裕邦 <sup>2)</sup> ・阪本 亮 <sup>2)</sup> ・酒井 清裕 <sup>2)</sup> ・名倉 美樹 <sup>2)</sup> ・樋田 紫子 <sup>2)</sup> ・中岡 阿沙子 <sup>2)</sup> ・梶原 都香紗 <sup>1)</sup> ・京井 志帆 <sup>1)</sup> 研究者所属：1)近畿大学病院心療内科 2)医学部内科学教室(心療内科部門)

## 1. 研究、開発・改良、提案目的・内容

COVID-19 の流行に伴い、生活のあらゆる場面で感染症対策が必須となっているが、これまでのところ COVID-19 の感染拡大下で心療内科外来を受診する患者において、感染の拡大や診療自体への意識について調査した研究はない。そこで本研究では、第一弾として、同条件下での患者の実態を調査することにし、患者の年齢、性別、疾患名、COVID-19 が患者の心身に与える影響、不安、抑うつ、などとの関連性を検討する。第二弾として、同一内容の再調査を行い、患者の実態の継時的変化を追うことで、感染症拡大下での患者の精神サポートおよび患者が安心・安全に受診できる外来体制を検討する。

## 2. 研究、開発・改良、提案経過及び成果

**■研究経過**  
第一弾として、令和2年5月22日～令和2年6月22日に近畿大学病院心療内科外来を受診した全症例に配布した質問紙・アンケート結果を後方視的に調査し、カイ2乗検定を用いて解析した。第二弾として、令和2年11月26日～令和3年2月26日に近畿大学病院心療内科外来を受診した全症例に質問紙・アンケートを配布した。

**■成果**  
心療内科外来の40.1%の患者に心的外傷性ストレス症状が認められ、より深刻な状況であることが示唆された。そうした中、診察・カウンセリングともに約7割の患者が診療の必要性を感じていることが示唆された。同時に3割の患者が、感染の心配から通院への抵抗感を感じていることが示唆され、医療者は患者がそうした抵抗感を抱えながら受診していることを理解する必要がある。また、患者は感染症対策を肯定的に捉えており、抵抗感も少ないことが示唆されたことから、患者が抱えている通院への抵抗感を医療者は理解し、その理解を患者に発信しつつ十分な感染症対策を実施することが、患者のストレス症状や通院への抵抗感の緩和に寄与すると考えられた。

## 3. 本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案計画

- ①第一弾の調査結果を短報として日本心療内科学会に投稿
- ②第一弾の調査結果を第62回日本心身医学会総会ならびに学術講演会で発表(演題登録済)
- ③第一弾の調査結果(もしくは第二弾の調査結果との比較)を原著論文として日本心療内科学会もしくは日本心身学会に投稿
- ④半年周期を目安に同一内容での調査を実施し、適時調査結果を学会誌に投稿もしくは学会発表

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
日本心療内科学会	学会誌	令和3年7月(発刊予定)に投稿予定
日本心身医学会	口頭発表	令和3年7月10～11日に発表予定

5. 開発・改良、提案課題の成果発表等

--